



からしだねの由来 マタイ 13章 31節、マルコ 4章 30節、ルカ 13章 18節

ホームページアドレス <http://mizumaki-church.sakura.ne.jp>

発行・カトリック水巻教会  
編集・広報委員会  
遠賀郡水巻町頃末南1丁目35-3  
〒807-0025  
TEL 093(201)0680 FAX(201)7354  
第418号

## 多くの課題に向き合うことに先立つ “願望”

フランシスコ・アシジ 谷口尚志

早いもので、新しい一年を迎え一ヶ月が過ぎました。教会暦も今月末には四旬節に移り、世の終わりに備えるための生活全体の総仕上げ、つまり、キリスト者にとっての生き方を集大成しなければならない季節に入ります。時の流れはわたしたちを待ってはくれません。腰を据えて過ごす時間すら与えてくれないかのようです（そもそも、腰を据えて過ごす時間を作ることができない事実を大きな問題としなければならないのですが）。だからこそ、キリスト者はより相応しく時を過ごす使命を持ち、それによって生じる義務を自覚し、山積する緊急課題の解決のために困難さを覚えながらも向き合い続ける努力と工夫が不可欠です。この水巻教会の現状を垣間見ても、円滑な教会運営を行うための小教区委員会規約の改定、信仰の伝達の難しさをどう克服するのか、様々な理由から教会と疎遠になっている信徒への司牧的な支援をどう行っていくか、各地区における信徒同士の連携や扶助のための協力の在り方についてなど、放置することのできない多くの課題があります。まずは「時のある間に、すべての人に対して、特に信仰によって家族になった人々に対して、善を行いましょう」（ガラテヤ6・10参照）というパウロの言葉を思い起こしたいものです。そして「わたしたちの神が、その御力で、善を求めるあらゆる願いと信仰の働きを成就させてくださるよう」（1テサロニケ1・12参照）。

さて、以前お伝えしたことですが、昨年の8月から10月にかけての一般謁見演説において、教皇フランシスコは「識別について」をテーマに連続講話をされました。今回、そのなかで識別の要素の一つとして挙げられた「願望」についての内容をご紹介します。多くの課題と向き合う前にこの「願望」を携えて臨まなくてはならないという気付きが与えられると思います。以下、抜粋。

教会学校	3面
旅の話(13)	4面
図書室だより	5・6面
幼稚園から	7面
委員会等報告	8・9面
お知らせ	10面

『願望は一瞬の切望のことではありません。そのイタリア語は「デシデリオ」と言いますが、興味深いことに、とても美しいラテン語、「デシドゥス」からきています。それは「星がない」という意味です。願望は星がない状態、つまり、人生の道を正しい方向に導く基準点がない状態です。それは、苦しみや欠如を呼び起こし、同時に、わたしたちが見失っている善に到達するための緊張も引き起こします。…こころの底からの願望は、わたしたちの存在のこころの琴線に深く触れることを知っています。ですから、困難や挫折に直面しても、願望は消されないのです。ちょうど喉が渇いた時のようです。何か飲み物が見つからなくても、わたしたちはあきらめません。逆に、飲み物への思いは増して、渴きを和らげるために、あらゆる犠牲を喜んで払うまで、わたしたちの考えや行動を占有してしまいます——ほぼ取りつかれている状態です。障害や失敗では願望を抑えることはできません。反対に、それらによって、願望はより一層わたしたちの中で大きくなっていきます。…イエスが奇跡を起こされる前に、しばしばその人の願望をお聞きになることは印象的なことです。「良くなりたいか？」(ヨハネ5・6)。時々、この質問は場違いなように思われます。というのも、その人は病気だということが分かりきっているからです。例えば、ベトザタと呼ばれる池で、もう何年もそこにいるのに、池に入るタイミングをどうにもつかめないうでいた体の麻痺した人に出会われたとき、イエスは彼に「良くなりたいか？」(ヨハネ5・6)と聞かれます。なぜでしょうか？現実には、体の麻痺した人の答えは、不思議にも彼自身にだけ関連するものではなく、癒しに抵抗するようなことを繰り返し言います。イエスの質問は、彼のこころに明確さをもたらす招きでした。さらには、前進する可能性を受け入れ、つまり、もう自分や自分の人生を、他の人に運んでもらわなければならない「麻痺した人」と考えないようにとの招きでした。けれども、床に寝ていた人はこのことに納得しているようではありません。主との対話を始めることで、わたしたちは、自分の人生で真に欲しているものは何かを理解することを学びます。

この身体の麻痺した人は、「はい、ほしいです。わたしは望んでいます」と言いながら、その次には「ほしくない。望んでいない。何も望まない」という人の典型です。何かをしたいことが錯覚のようになり、それを行うための一歩を踏み出さないのです。したいけれどもしたくない人たちです。これはよくありません。あの体の麻痺した病気の人は、そこに38年間いました、いつも不満を言っていました。「いいえ、ご存じの通り、主よ、水が動くとき、わたしを池の中に入れてくれる人がいないのです。わたしが行くうちに、他の人が先に降りて行くのです」(同7節参照)。そして不満を言い続けます。気をつけてください、不満は毒です。魂や人生の毒です。なぜなら、願望が育っていくのを妨げてしまうからです。不満には気をつけましょう。家族や夫婦の間で、相手の不満を言ったり、子どもが父の、神父が司教の、司教が多く別の不満を言ったり・・・これはよくありません。自分が

不満を言っていると気づいたら、気をつけましょう。それはほぼ罪と同じです。なぜなら、願望が育つのを妨げるからです。…多くの人々は、自分の人生で何を欲しているのか分からないために苦しんでいます。その人たちは恐らく、自分のもっとも深くにある願望に触れたことがないのかもしれませんが。分からないのかもしれませんが。「あなたの人生で何を欲していますか？」——「分かりません」ということなのです。そのため、さまざまな試みとその場しのぎの方法を行き来して、結局どこにもたどり着かず、貴重な機会を無駄にしてしまうリスクがあるのです。ですから、理論的には望ましいことであっても、機会が到来したときでも、ある種の変化は決して実現されないでしょう。何かを押し進める強い願望が不足しているからです。…もし主が、今日、わたしたちに尋ねられたら、例えば、わたしたちにエリコの町の盲人に聞かれたこと、「何をしてほしいのか」(マルコ10・51)と尋ねられたら、——主が今日、わたしたち一人ひとりに「何をしてほしいのか」と尋ねられたら——わたしたちは何と答えるでしょう？恐らく、最終的には、神ご自身がわたしたちのところに植え付けられた神のもっとも深い願望を知ることができるよう、助けてくださいと主に願うかもしれません。「主よ、わたしは自分の願望を知ることができますように。大きな願望を持つ人となれますように」。恐らく主は、わたしたちにそれを実現させるための力を与えてくださるでしょう。これは計り知れない恵みで、他のすべての基礎となるものです。福音にあるように、主にわたしたちのために奇跡を起こしていただくのです。「わたしたちに願望を与え、その願望を育てられますように、主よ」。というのも、主もわたしたちに大きな願望を抱いておられるのです。主の豊かないのちをわたしたちと分かち合われたいと望まれているのです。』



## 教会学校のページ



昨年12月15日ミサ後、聖堂玄関口で「愛の街頭募金」を行い多額の「愛」の印を募金していただきました。その後、場所を「マックスバリュ」に移動して、地区の信徒の皆さんと一緒に一般の人に向けて街頭募金活動を行い、ここでも多額の「愛」の印を寄付していただきました。

集まった「愛」は日本赤十字社 NHK 海外助け合い支援に送金されました。



## 旅の話 (13)

岩本光弘

前回のペルーの旅を今回も続けさせていただきます。

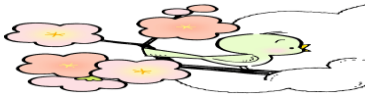
石崎さんの家族とのクリスマスのホームパーティーの後に近くの教会に出かけていきました。聖堂は24時に開門するらしく、たくさんの人たちが聖堂の扉の前に集まっていました。この教会は千人くらい入れるとても大きな聖堂でした。

聖堂が開くと、扉の前にいた人たちは中央の扉から一斉に入堂しましたが、聖歌隊らしい青年たちが左側の扉からギターや太鼓や民族楽器を奏で歌いながら入っていきました。伴奏の楽器が違ってもクリスマス曲でも印象が全く違うのですね。ミサが終わった後も青年たちは楽しくアレルヤ、アレルヤと歌いながら演奏を続けていました。これが南米のクリスマスミサだと感激したのを今も覚えています。

25日は午前中からリマの市内観光に連れて行っていただきました。面白かったのは日系人専用の施設でした。入り口には銃を持った守衛がいて、日系人の証明書を出すことで入ることができました。ここは日系の人たちがお金を出して作ったと言う話でしたが、その施設の広大な広さに驚いてしまいました。サッカーコートが二面、スタンドがある野球場が一面、三階建ての学校のような建物が二つあり、ここには一階に室内プールがありました。室外にもプールがあり日系の子どもたちが泳いでいました。リマ市は水資源が悪いところで、一日に10時間くらいしか水道から水が出ないのに日系人の施設には二面のプールがあるのです。奥にはゲートボール場が八面くらいありました。年配の人たちが集まってプレーをしていましたが、会話は全部日本語でした。横には売店があり、日本語で「天ぷらうどん」などと書いたメニューがあり、ペルーでの日系人の人たちの経済力には驚かされました。

日系人の娘さんが亡くなったので追悼ミサがあるから行こうと言われて行きました。大きな聖堂の横に水巻教会くらいの聖堂がありました。日系人たちが建てた聖堂と言うことでした。ミサは日系人の加藤神父の司式で、典礼文は半分日本語、半分为スペイン語で説教は日本語でした。翌日ペルー人青年の話をもとに神父の通訳で聞くことになっていましたので、ミサのあとに加藤神父の所に挨拶に行きました。ミサの後に歩いて10分くらいの所にあるに日系人会館に行きました。そこでは副館長の飯田さんにお会いしていろいろな話を聞きました。

飯田さんはゲリラが日本大使館に突入して来た時に大使館のパーティーに奥さんと一緒に出席していたそうで、その後奥さんが病気があったのでゲリラと交渉して女性たちと一緒に開放してもらったそうです。飯田さんの話でビックリしたのは、ペルーには日系人は6万人いるという話でした。このころ日本に来ている日系ペルー人は6万人と法務省は発表していたからです。以前に石崎さんから3000ドル出すと日系人の資格が手に入るという話を聞いていたのですが、その話が本当だったことを知りました。その後調査で会った強制退去された人たちは全員が偽日系人として日本に行っていた人ばかりでした。



## 図書室便り

【ひかりの子】 ははきぎほうせい 簗木蓬生『守教』〈下巻〉 矢田 公美

4 人の遣欧少年使節の一人中浦ジュリアン修道士がバジオ神父の通詞として秋月の教会を訪れ、ミサを行う。ジュリアン修道士は、少年楽士を伴い、聖歌を演奏する。ミサが終わり皆が帰りかけた時、領主黒田ミゲル直之が騎乗して姿を見せた。準管区長バジオ神父が駿府で徳川家康、さらに江戸で徳川秀忠に謁見し、禁教令の撤廃を願うという。その旅が上首尾の結果をもたらすよう二日間、交代でミサを一刻も中止せず続行する。黒田家の家臣、秋月の領民、筑後の村民百姓が話し合っ、この教会に常時信者の祈りが途絶えぬように、と要請する。しかし翌年暮れに秋月を訪れたジュリアン修道士によれば、禁教令の撤廃に関する家康公と秀忠殿の意向は微妙な差があった。家康は黙認する寛容な態度であるのに対して、秀忠は慎重に言葉を選び、是とも非とも言わなかった。

関ヶ原の合戦後、領主は代わり、秋月の教会も破壊されイエズス教の信仰が保たれていたのは筑後領の村々と筑前領の一部だった。体調のすぐれない久米蔵は大庄屋の家督を音蔵に譲り、春の雪中一人甘木の教会で祈った後、ペドロ岐部と出会うが、その後死去。秀忠公による切支丹禁止令が出され、宣教師の海外追放、捕縛、処刑が各地で広がる。行商人姿の中浦ジュリアン神父が大庄屋音蔵を訪れ、長崎、江戸での殉教者の様子を語る。音蔵の問いかけにジュリアン神父は40年前のローマでの法王謁見の次第を話す。翌朝ミサをあげた後、音蔵の質問「私たちはどげんして教えを守るべきでしょうか」に中浦神父は「殉教してはいけません。殉教は私たちだけで充分です。たとえ一人の聖職者が殉教しても、そのあとから、百人、千人の聖職者がやって来ます。信者は、なんとしても信仰を守ればよいのです。」

戸主ごとに切支丹改めの証文を書かせ庄屋が集めて大庄屋に届け、こゝろびぎょう郡奉行に提出することが課せられた。音蔵の弟で今村の庄屋道蔵は、家督を息子の鹿蔵に譲り、自分を、棄教せず布教を諦めないと言い募るので極刑でもって咎めをしてもらいたい、という訴状を書くように大庄屋に強く迫る。命より大切なデウス・イエズスへの信仰を貫くため、また高橋村の百姓たちのために自らを犠牲にする。道蔵は捕縛され拷問の末、ながれこ流川のほとりに十字架がたてられ、たっけい磔刑に処せられた。その時以来、高橋組の百姓は皆転んだとして、公儀に届け出た。面従腹背だった。

道蔵磔刑の3年後音蔵は、流川で葛籠を背負った旅商人姿のペドロ岐部神父に出会う。ペドロ岐部は、追放令で長崎を出た後マニラ、マカオ、ゴア、ポルトガル船に水夫として乗り込みペルシャの港に上陸、そこからは行商人一団に雇われ砂漠をダマスカスへ。そこからは一人旅でガリラヤ、ナザレ、ベトレヘム、エルサレムで半年を過ごし、ヴェネチア行きの巡礼船の水夫として雇われ、ヴェネチアからは陸路ローマへ。叙階されイエズス会に入会した。

神父は鹿蔵に簡単な暦の作り方を教えた。「厳格に教会暦を守る必要はありません。要は日々の祈りです。」基本となるのは冬至で、その日から3日後をデウス・イエズスの誕生とする。



その56日後から悲しみの節に入る。その期間は46日であり喪に服したような生活を続ける。以後は7日ごとに日々の暮らしに節目をつける。休息の日「ドミンゴ」。

三十年後、領主が代わり宗旨人別帳が義務づけられ、誓詞血判、寺参り、長崎から始められた囑託銀（イエズス教の信徒の訴人に褒美をあたえる）という高札、絵踏み...「絵踏みの銅板は公儀が作ったもんですか」「元はと言えば大公儀が配ったもんじゃろ。それば原型にして公儀が何十枚か何百枚か鑄込んでるとに違いなか。いくらイエズス様のお姿が彫られとるとはいえ、心からの祈りを捧げとらんなら、いっちょん尊さはなか。ただの銅板たい...」

1867年（慶応3年）1月見知らぬ商人風の4人の男が今村の畑にやって来た。「一晩泊めてくれないか。お礼はする。」「すんません。この村じゃ、よそん者は泊めんようになつとります。」「どこからこらっしゃたとですか」「長崎です。」<sup>そめあい</sup>染藍の買い付けにきたという。買い付けに行ったのは御井郡の西原村。そこでこのあたりに切支丹がいると聞いたという。2年前長崎の大浦に天主堂が建てられたこと。建てたのは、フランスから来られたプチジャン神父。こうして今村の信徒と長崎の信徒との交流が密かに始まり、プチジャン神父から洗礼を受けた者もいた。

代々大庄屋を務めて来た平田家は、後継が絶えて、70年前に三瀨郡から入って来た余所者だった。長崎で浦上4番崩れの信徒狩りが始まった時、顔馴染みの信徒二人が逃れてきた。今村でも役人による家探しが行われ、秘匿していた先祖からの聖具が灰塵にされた。その後庄屋と長崎を訪問した信徒など7名が捕縛され、城下で公事方役人による詮議をうけたが5日後に無事放免。1873（明治6年）新政府は太政官布告で、切支丹禁令を含む高札の撤去を命じた。ペドロ岐部が予言した通り、磔刑に処せられた今村の庄屋平田道蔵の墓の上に藁屋根木造の今村教会が明治14年建立された。（1881年）

## 「横尾龍彦 瞑想の彼方」展の展覧会

北九州市立美術館より「横尾龍彦 瞑想の彼方」展の展覧会図録が我が教会に寄贈された。去る2022年12月17日から2023年1月22日までの「横尾龍彦 瞑想の彼方」開催の際に取材を受けた縁による。横尾龍彦（1928-2015）は福岡市生まれ、活動初期には北九州市で美術教師を務めた画家・彫刻家だ。我が教会の十字架上のイエス・キリスト像も彼の作品と知る者も多い。国内に残された作品を中心に、彼ゆかりの北九州市、神奈川県、埼玉県の3都市を巡回する本格的回顧展だ。作風は抽象的・幻想的といわれるが、そこに彼がうつし込んだ神、自分への問い、内奥から湧き上がるエネルギー、精霊、無意識・・・を感じるができるだろうか。





## 水巻聖母幼稚園 マリア子どもの家 2月のお知らせ

いつも皆様のお祈りとお支えいただき感謝申し上げます。

### 〈水巻聖母幼稚園〉

新学期が始まり、3名のお友達が入園しました。お兄さんお姉さんと過ごしなが、少しずつ幼稚園生活に慣れていきます。3学期が始まり、1つ大きくなる準備をしている子どもたち。4月から1つ上の学年になることを楽しみにしており、年長児は卒園まで残り少ない日々を、大切に過ごしています。

先日のお餅つきでは、もち米を蒸し、杵と臼を使ってお餅をつきました。「1・2・3・1・2・3」と掛け声をしながら、みんなで力を合わせ、ついたお餅は自分で丸めました。子どもたちは笑顔いっぱい、楽しいお餅つきになりました。



水巻聖母幼稚園 TEL : 093 201 9559  
e-mail : [ContactUs@mizumakiseibo.ed.jp](mailto:ContactUs@mizumakiseibo.ed.jp)

### 〈マリア子どもの家〉



明けましておめでとうございます！

今年も、色々な経験をたくさんして、楽しく過ごしましょう。今年うさぎ年で、幼稚園のウサギのはなちゃんが活躍です。年賀状を飾ったり、子ども達と追いかけてごっこをしたり、触られたりなど。お正月からたくさん遊んでもらいました。

2回目(10月25日)に植えた大根が、なかなか大きくなりません。人参も、1~1.5cmの芽を出した後、伸びません。寒い季節は、エネルギーが寒さ対策に使われるのでしょうか。

78日目の大根を2本抜いてみました。もう少しかなあ？もっと大きくなるかなあ？大根さん、寒さに負けず大きくなって下さいネ！



TEL : 050 5212 7759  
HP : 水巻町マリア子どもの家  
水巻聖母幼稚園・マリア子どもの家  
園長 水口 由美  
教職員 一同

# 委員会等報告

2023年1月分

## 1 月度小教区委員会 1月15日

### 1. 行事予定

- ・2月 5日(日) 小教区委員会
- ・2月 12日(日) ミサ後～地区集会①
- ・2月 19日(日) ミサ後～地区集会②  
18時～ベトナム語ミサ
- ・2月 22日(水) 灰の水曜日
- ・3月 4日(土) 19時～四旬節黙想会  
シスター中野春香氏(純心聖母会)。
- ・3月 5日(日) ミサ、四旬節黙想会。

### 2. 議題

#### (1) 各委員会報告

##### ① 広報委員会

・「からしだね」の発行部数(現在115部)を130部に増加する。

##### ② 典礼委員会

- ・クリスマスの典礼にご協力いただいたことに感謝したい。
- ・新しいミサ曲の導入に向けてのことや、ミサ自体の流れの確認のために1月25日(水)19時～典礼委員会を開く。

##### ③ 営繕委員会

- ・大きなことは年内に済んだが、修理の必要な箇所や倉庫の整理等があるので、それを進めたい。
- ・中間地区吉田氏が新鐘楼の設置、ふれあい会で使用している机等の修理のために尽力して下さった。感謝の気持ちを伝えて欲しい。

##### ④ 納骨堂委員会

- ・新たに納骨室の購入を希望する方が数名いるので、対応したい。

##### ⑤ 冠婚葬祭の会

- ・結婚式の際の案内板(手書き)を村中氏に依頼、快く承諾していただいた。

##### ⑥ 総務

- ・12月24日(土)にはふれあい会が中心となって200人分のちらし寿司を準備したがとても好評だった。ガスの元栓を増設したこともあり、準備も滞りなく勤めることができたので良かった。

- ・2月24日(金)に抱樸支援のための炊き出しを行うので、ご協力をお願いしたい。

#### (2) 12/11(日)の街頭募金活動について

- ・地区ごとに街頭に立つ人を交代して行う予定だったが、結果的に同じ人が立ち続けることになっていた。信徒によっては街頭まで出かけて立ち続けることが難しい状況があるということだろう。

- ・子ども達が街頭に立って呼びかけているので心を動かされて募金して下さっている方がいると感じた。

- ・子ども達が教会で呼びかけて行う募金活動と街頭募金の日を分けた方がいいと思う。

#### (3) 小教区委員会規約(改訂版)作成のための準備委員会について

- ・1月22日(日)に第1回目の準備委員会を開くことになっている。委員は主任司祭と小教区委員長、吉岡英美氏、常定基子氏、宗恵氏、田中拓氏、対馬須美江氏、アブドゥハン恭子氏との8名。2007年1月14日付けで承認されたものに加え、吉岡氏が準備



したものを参照して規約案の作成を進める。

(4) 2023年度予算案の準備について

・教区本部に提出する前に確認を行った(信徒には総会の際に提示する)。

(5) これまで「こころの会」で集めた献金について

・以前、岡本氏、金氏の呼びかけで集められた献金の送金先について小教区委員会で確認する必要があるため、送金を希望しているウクライナ正教会の司祭と連絡を取っていただき、具体的に希望する支援内容についての返信メールが金氏に届いた(配布資料)。このメール本文、金氏からの主任司祭へのメールの内容を踏まえ、役員会の全会一致で以下の対応を取ることとした。

①困窮しているウクライナ正教会の信徒を対象としている司祭個人への支援活動となるため、支援先は限定されてしまう。そのため、支援先を限定しない支援活動と位置付けてきたこれまでの寄付金の呼びかけ(カリタスジャパンや日本赤十字社を通じた寄付金の呼びかけ)と異なっていることを岡本氏、金氏に理解していただく。

②既に呼びかけて献金を集めているので、それをカトリック水巻教会の名義ではなく、個人の名義で寄付することを「こころの会」において参加者に説明し、了承を得たうえで送金していただく。

(6) 地区集会について

・2/12(日)と2/19(日)のミサ後(10:50～)に行く。

2/12(日) 芦屋・遠賀地区は「会議室5」にて。  
赤間・海老津地区は「図書室」にて。

2/19(日) 折尾・高須青葉地区は「会議室5」にて。  
梅ノ木・吉田・中間地区は「図書室」にて。

・議題は「相互の信仰の分かち合い」、「地区委員の引き継ぎが難しい現状について」、「巡礼の訪問先について」、「高齢によって教会に来ることができない状況にどう対応していくかについて」。なお、「高齢によって教会に来ることができない状況にどう対応していくかについて」は主任司祭から説明と提案を行う。また、巡礼の日程は9月23日(土)とする。※スケジュールは未定。

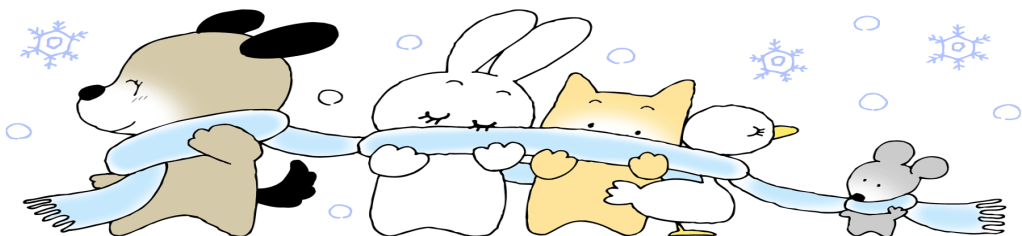
(7) アベイヤ司教様からの手紙について(12/12付)

・内容の確認(中心は教区の財政改革について)

・3月5(日日)15時から小倉教会にて説明会があるので、小教区委員長と財務と会計の3名で出席。3/12(日)の小教区委員会で簡単な説明を行って相互理解を深める。その後、信徒への説明を行うようにする。

(8) その他

・車いすの確保について。今後、必要な方が増えるのは目に見えているために車いすを2台ほど増やしたい。寄付をお願いすることとする(倉庫の容量も考慮して)。



# 2月のおしらせ

## ★灰の水曜日(大斎・小斎)★

日 時：2月22日(水)  
10時～、19時30分～

## ★地区集会有ります★

2月12日(日) 芦屋・遠賀地区  
赤間・海老津地区  
2月19日(日) 折尾・高須青葉地区  
梅ノ木・吉田・中間地区

詳しい内容や集まる場所等は、小教区委員  
会報告のページをご覧ください。

## ★四旬節の黙想会★

日 時：3月4日(土)19時から  
3月5日(日) ミサ後

## ★レプトン会より★

トラピストクッキーとミサワインの販売  
収益金； 22,931円  
カンパ金； 6,207円  
皆様のご協力に 感謝いたします。  
ペルーの貧しい子どもたちの支援金に活  
用します。

## 人・ひと

12月10日  
◇マリア 山口 マスさん(海老津地区)  
1月19日  
◇アンナ 山本 ミサヨさん(折尾地区)

## NPO法人抱樸(ほうぼく) への支援活動

水巻教会は外に出向いて行く教会、宣教する教会として、NPO 法人抱樸が「出  
会いから看取りまで」と掲げる伴奏型支援活動に協力しています。

## 「ホームレス支援炊き出し」

日 時：2023年2月24日(金) 9時～  
場 所：水巻教会 信徒会館

## ★お弁当110食を作ります。

- おかず数品を準備し、ご飯と一緒にパックに詰めます。
- お手伝いをしていただけの方は、聖堂後方に置いてある「ホーム  
レス炊き出し協力者」の用紙に、お名前を記入してください。

\*出来上がったお弁当は、炊き出し拠点の小倉勝山公園で配食されます。

<抱樸支援会>

